

## カトリック香里教会 復活節第四主日 2021年4月25日

〔そのとき、イエスは言われた。〕「わたしは良い羊飼いです。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。——狼は羊を奪い、また追い散らす。—— 彼は雇い人で、羊のことを心にかけていないからである。わたしは良い羊飼いです。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。わたしは命を、再び受けるために、捨てる。それゆえ、父はわたしを愛してくださる。だれもわたしから命を奪い取ることはできない。わたしは自分でそれを捨てる。わたしは命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。これは、わたしが父から受けた掟である。」 -ヨハネ 10 章-

### 神に活かされた人



真の「権威は」神から来て、神のみ心を行うためにあるものです。神が手を置いていない権威は、人を抑圧するだけのものになります。かつて教会を建てるべくして選ばれた、民の議員、長老たちは、その心を持たず、御父のみ心である聖霊を捨てました。捨てられた聖霊は、ペトロをはじめ、弟子たちの内に働いて、真に権威ある教会を建てていくことになったのです。

かつてのリーダーたちが聖霊と無縁だったのは、彼らが、心ではなく、肉による富と力の世界に価値を置いて、それが悪霊の支配下にあるものとも知らず自分たちは神に従っていると思い込んでいる、かたくなな人たち故でした。

神に出会った人は、人が変わるといいます。神に出会ったと思い込んでいる人も、人が変わるのです。しかし、両者に決定的な違いが現れるのは、命に関わるような「いざ」という時が来た時です。その時、本当に神に出会っている人は、自分ではなく人を大切にしますが、出会ったと思い込んでいる人は、自分を大切にします。自分の命が危ういとなれば、人を殺してでも自分の命を守るのです。これが、神に活かされているか、いないかの違いです。

以前、信者さんの中に、暴力団や、ヤクザにもひるまない人物がいました。自分の会社を畳んで、教会の執事をしている人でしたが、ある日私は彼に「洗礼の動機」を尋ねた時、彼は「自分のために死んでくれる親分なら信用できると思った」と答えてくれました。主イエスを言いつくした言葉だと思いました。